



第27号

令和6年2月1日発行

雲南地区保護司会
 (事務局:雲南市木次町木次1012番地1)
 <TEL・FAX(0854)42-3550>
 題字揮毫:陶山頼子 保護司
 印刷:株式会社報光社

【八戸(八岐大蛇)】 馬木小学校子ども神楽クラブは、昭和50年に結成された地域の伝統芸能を受け継いだ子どもクラブです。5年・6年生を中心に、6月から週1回約5か月間馬木コミュニティセンターで活動しています。今年から新たに八戸(八岐大蛇)を演目に加え、馬木地域の神社の例大祭や地区文化祭で披露しています。



総力戦の取り組みを

奥出雲町長 糸原 保

皆様には平素より、犯罪や非行に対する取り組みと安全で安心なまちづくりの実現に向けて多大なるご尽力を頂いておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

特に、長期化した新型コロナウイルス感染症による行動制限や各種行事の自粛などは、制限が緩和された現在においても、皆様の活動に大きく影響を与えているものと推察し、ご苦労されていることと思っております。

奥出雲町では、「犯罪のない安全で安心なまちづくり条例」を平成二十二年に制定し、防犯意識向上と自主的な活動の促進に取り組んでいます。毎年七月は「青少年の非行・被害防止強調月間」と「社会を明るくする運動強調月間」と位置づけ、様々な啓発・広報活動を展開しています。

私は少子高齢化、人口減少が急激に進む現状において、「奥出雲創生(総力戦のまちづくり)」をかかげて町政を推進しています。これまで保護司の方には犯罪や非行に対する更生支援と犯罪予防にご尽力いただいておりますが、これらの活動は保護司や保護司会だけではなく、

地域全体で一体となった取り組みが欠かせません。新たな被害者を防ぐため、また再犯を防ぐためにも、保護司の皆様、我々行政や関係機関、そして地域の皆様方と一体となった取り組みで、今よりさらに温かく、この地域に住んで良かったと実感できるよりよい社会・地域に変えていく必要があります。

「犯罪や非行を防止し、安全で安心して暮らすことのできる明るい地域社会を築くこと」「犯罪や非行を犯した方が再び同じ過ちを繰り返さないよう、その立ち直りを支えること」を目指すこの運動において、地域組織・団体との連携を強化し、一体となってまさに総力戦で犯罪のない町づくりに邁進して参ります。

生きづらさを抱える方々が、様々な方面から支えを得て社会の中で再び関わり、やり直せるよう、皆様の温かい目ですपोर्टいただけることを願っております。

引き続き、啓発活動を活性化させ、犯罪や非行のない地域社会を築いていくために、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度 主な活動の報告



メッセージ伝達式 (雲南市)



学校訪問 (阿用小学校)



協力雇用主会総会



研修会の様子



メッセージ伝達式 (飯南町)



啓発チラシ配布 (雲南市役所)

「ダルク」という聞きなれない言葉ですが、「薬物依存症で苦しんでいる人たちの回復を支援する施設」ということです。全国どこでもあるということですが、残念ながら鳥根県にはありません。

十月二十三日朝、木次を出発し、砂丘の近くで昼食をしてダルクに向かいました。支援物資をおろし、通された部屋は教室を少し小さくした部屋でした。そこがスタッフを入れて二十二名が依存症と戦っている場所です。

初めに鳥取ダルクの活動のCDを視聴し、次に所長さんの話を聞きました。高校受験を通し親との考えの違いからのぶつかりあい、モヤモヤした気持ちを薬が秋晴れのすがすがしい気持ちにする。世の中にこんな良いものがあるかという思いがしたという。そのような時期を過ごし、現在は岡山ダルクと掛け持ちをする忙しい日々のです。ですが、いつ、また依存症に戻るか分かりません。毎日が依存症との戦いです。週間スケジュール表を見ましたが、休日があります。一日でもスキがあるかもしれません。所長さ

鳥取ダルクへ視察に行つて 村上 秀道

人の言葉によると「依存症を回復させようとする強い精神力も必要ですが、時に神仏に御加護を願う気持ちになります。」とのこと。二人目は国立大学博士課程を終えた三十歳位の人でした。種々仕事をしながら、アルコール、薬と続き現在はダルクで回復させているところとのこと。薬物依存症には学歴など関係ないということです。薬物は一回でもしたら依存症です。三人目は二十二歳の若者。今までに二回少年院に入ったとのこと。現在は三か月薬との縁が切れているとのことでした。

三人の「生」の話を聞いて「こんな自分ではなかったのに」という失望感と「絶対回復するんだ」という強い信念との葛藤がダルクにあると感じました。帰路、会長さんの挨拶の中で、「鳥根ダルクの創設にこの視察がキッカケになれば良いのでは。」と述べられました。



『社会を明るくする運動作文コンテスト』 審査結果

雲南地区審査結果 (雲南地区入選作品)

中学校				小学校			
学校名	氏名	学年	題名	学校名	氏名	学年	題名
大東中	経種 春乃	2	誰もが暮らしやすい社会	阿用小	嵩本 夏希	5	一つの挑戦
海潮中	足立 結菜	3	SDGs を身近に	佐世小	藤原 大弥	6	声を掛け合う社会に
掛合中	藤原 伊織	1	災害	海潮小	宮川 朋菜	5	地域の温かさ
掛合中	石橋 千穂	3	命をいただく	三沢小	内田理依紗	6	明るい世界のために
頓原中	伊藤 紅	2	人間の責任として	三沢小	吉川 翔竜	6	優しさの輪

島根県審査結果

島根県保護司会連合会長賞 (中学校の部第2位)	大東中 2年 経種 春乃
島根県保護司会連合会長賞 (小学校の部第2位)	三沢小 6年 吉川 翔竜
島根県更生保護女性連盟会長賞	佐世小 6年 藤原 大弥
島根県更生保護女性連盟会長賞	阿用小 5年 嵩本 夏希
島根県 BBS 連盟会長賞	海潮小 5年 宮川 朋菜

大仁地区更生保護女性会の紹介

会長 藤田麻里

本会は現在五支部、一〇〇名の会員で活動をしています。

コロナ禍の三年間は活動の自粛もありましたが、昨年度から「愛の図書募金」を再開することができました。今年も地区内の小中学校、幼稚園などへ贈呈させていただきます。子供達の健やかな成長に微力ながらもお手伝いできたことをうれしく思っています。

また自粛中でも、地元の駅の清掃、花植え等美化活動やバス停留所の雪かき、老人ホームでの奉仕作業、子供達の見守り活動、あいさつ運動、読み聞かせ等、また古布、古切手、ベルマークの収集を継続して行いました。新たにシトラスリボンを作成し、小中学校・障害施設へ寄贈した支部もありました。

今後も変わらぬボランティア精神と団結力で地域の方に寄り添っていく活動に取り組んでいきたいと考えています。



支部だより

仁多支部

楠 京子



亀嵩幼稚園訪問

仁多支部保護司会では、犯罪予防活動として「街頭宣伝活動」と「幼児園訪問」を行っています。「街頭宣伝活動」は「社会を明るくする運動」月間に併せ、毎年仁多ショッピングセンターサンク



啓発チラシ配布 (サンクス前)

ス様正面出入口で行っています。今年は七月二十七日夕方五時より、社明幟を掲げて保護司会の名称入り「うちわ」を来場者へ手渡し、活動への理解、協力をお願いしました。

「幼児園訪問」は地区内幼児園を毎年一〜二ヶ所ずつ行っています。今年「亀嵩幼稚園」「阿井幼児園」の二カ所を訪問しました。年中、年長児クラスを対象にして、参加保護司自己紹介の後、人形劇「はらぺこあおむし」、そして日本

吉田町の人口は千四百五十人、児童生徒数は六十七人の小さな町です。保護司も二名しかおりません。七月の「社会を明るくする運動」に併せ、町内にのぼり旗の設置、ポスターの掲示等、啓発活動を行いました。そして作文コンクール応募のお願いに小、中学校

吉田支部

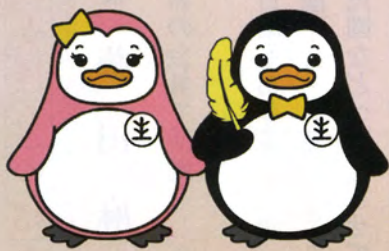
支部長 堀江 三智江

更生保護協会発行絵本「コウクンのきいろいはね」の読み聞かせとその絵本の贈呈をしました。園児みんなが真剣に耳を傾け、目を凝らす姿が微笑ましいものでした。活動後に保育士さんとの話で、「年長児にとって絵本の内容は理解できる。年中児には少し難しくても、年長児がお手本になり、読み聞かせの経験を引き合いに出すことで、『悪いことをしたらきちんと謝る。』といったことが身につけていくと考えられる。」とお話しいただき、我々の今後の活動の励みとなりました。

を訪問しました。その時には、「社明運動」の活動についての話や、更生保護活動への理解、協力をお願いをして帰りました。

十月十六日には掛合支部の皆さんから声を掛けて頂き、ショッピングセンター前での啓発活動のチラシ配布をしました。チラシに目を通してもらい、私達の活動内容などを少しでも理解してもらえると嬉しいです。

見て見ぬふりをせず、小さなことでも少しずつ、自分のできることを見付けて頑張っています。犯罪のない明るい子供たちの笑い声の絶えない、そんな社会を目指して取り組んでいきたいと思えます。



更生ペンギンのサラちゃん

更生ペンギンのホゴちゃん

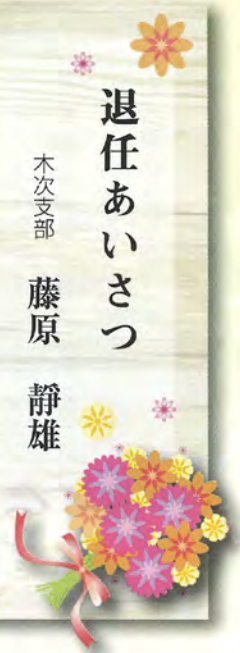
退任あいさつ

木次支部 藤原 静雄

私は、平成十七年十二月保護司を拝命して以来、十八年間務めてまいりました。

委嘱を受けて六年間は、担当することもなく、ひたすら定例研修を受けておりましたが、平成二十四年生活環境調整を皮切りに令和元年度まで、切れ目なく保護観察を担当してきました。その間、対象者が保護観察中に再犯を起こし、保護観察が一年を残し終了したことで、処遇の困難さを実感しました。その後、令和元年度から令和四年度まで、企画調整保護司として保護司会事務局に入り、事務局長を四年間務めてまいりました。ここでは、松江保護観察所をはじめ関係機関とのかわりを持つことで、知見を広げることができ、自分としての成長につながりました。

更生保護を取り巻く情勢は厳しいものがあります。雲南地区保護司会が地域の安心・安全のため、益々発展し活動されることを祈っております。最後に、これまで支えていただきました松江保護観察所の皆様並びに雲南地区保護司会の皆様には、厚くお礼申し上げます。



全国保護司連盟理事長表彰を受賞して

頼原支部 石川 隆

保護司を拝命して十八年になります。公民館に勤めていましたので、職務として地域の実情や課題に触れることや、住民の皆さんと接する機会も多かったことから先輩の保護司さんから就任の打診があったのだらうと思います。幸い穏やかに治安の良い地域であるところから幾度かの事案を担当したのみで、あつという間の十八年でした。

勤務する頼原公民館は子ども対象の事業が多く、子どもたちと接し見守る中で互いを尊重し仲良くすることの大切さを指導してきました。時には厳しく叱った子どもたちが成人し、今でも公民館に顔を出して町を盛り上げるイベントを企画してくれたりしています。公民館の仕事を通じ住民の皆さんと親しく

なったことが、社会を明るくする運動や防犯活動など、保護司として多少は役立ったのかなと思います。この度の身に余る受賞は、導いてくださった先輩保護司の皆様や松江保護観察所の皆様のご指導の賜物と感謝申しあげ、残りの任期を全うしていきたいと思っております。



受賞された皆様

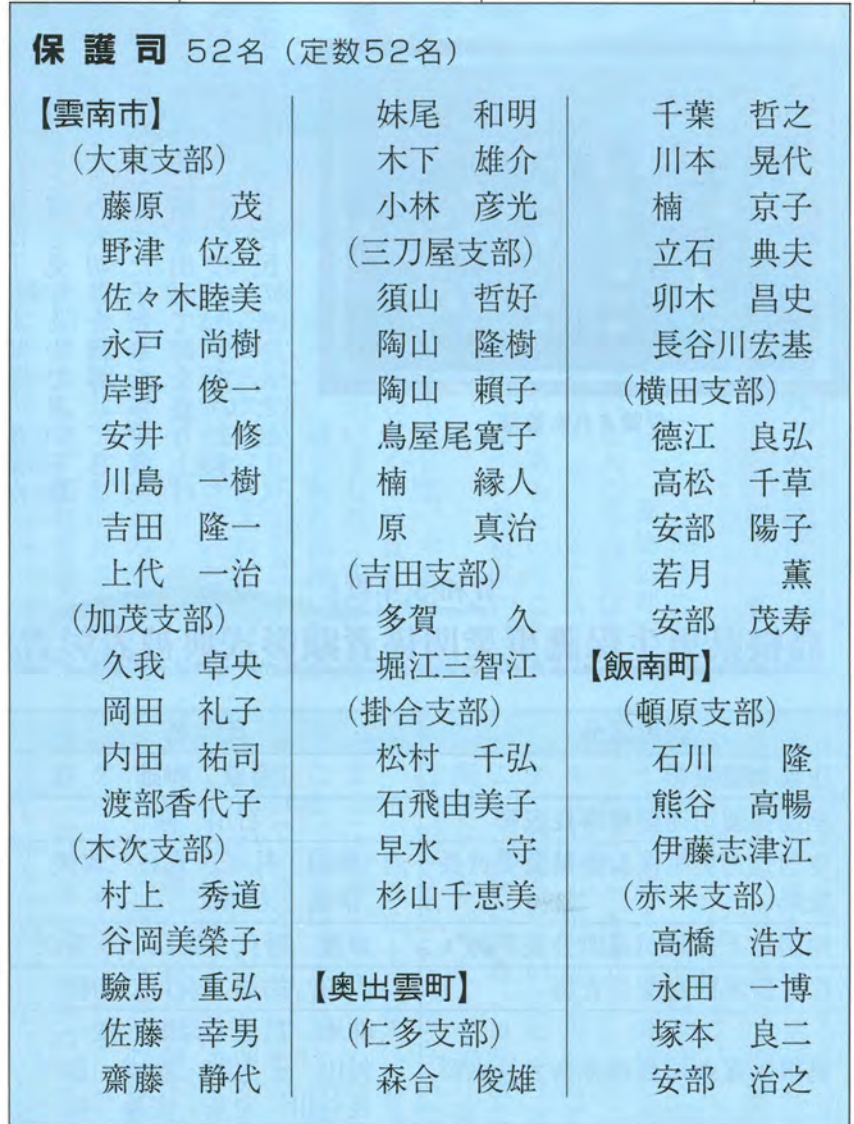
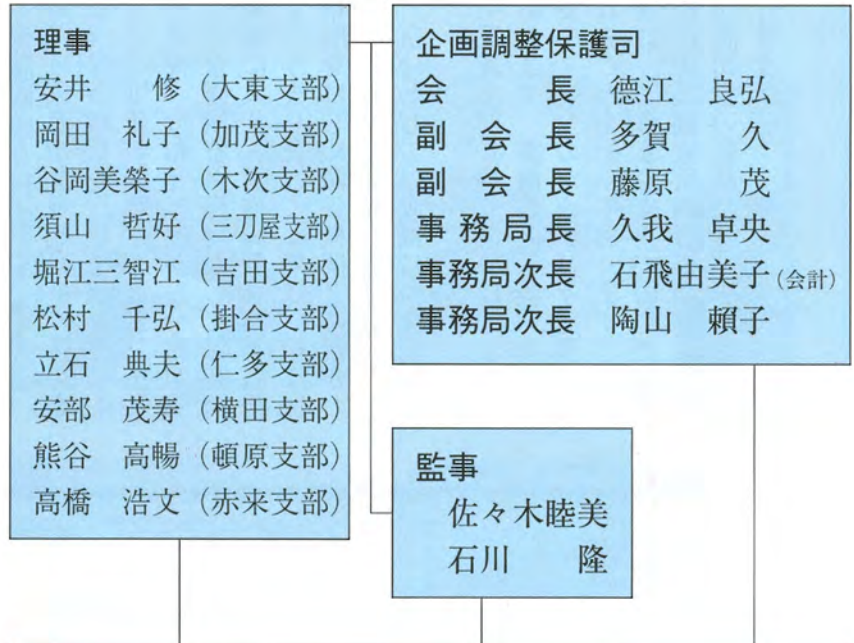
令和5年度

鳥根県更生保護事業関係者顕彰式典被表彰者

表彰区分	氏名
法務大臣表彰	藤原 静雄
全国保護司連盟理事長表彰	石川 隆
中国地方更生保護委員会委員長表彰	岡田 礼子・立石 典夫 伊藤 志津江
中国地方保護司連盟会長表彰	齋藤 静代・堀江 三智江
松江保護観察所長表彰	内田 祐司・永戸 尚樹
鳥根県保護司会連合会会長表彰	卯木 昌史・岸野 俊一 杉山 千恵美・塚本 良二 長谷川 宏基・安井 修

令和5年度雲南地区保護司会組織図

(令和5年12月1日現在)



編集後記

昨年「プリズン・サークル」を鑑賞する機会を得ました。内容は青少年の心が成育環境により歪められ、犯罪を犯罪と思わない人格が形成され、その親もまた暗い子供時代を経験しているという現実と、島根あさひ社会復帰促進センターでの更生プログラムを受けられる人は少数であるということです。私は、この負の連鎖を断ち切らないと、青少年の犯罪は無くならないと感じました。明るい社会を作るために、この映画を地域の方はもちろん、特にこれから親となる方々には是非見て頂きたいと思いました。

(塚本)



編集委員長	佐藤 幸男
編集委員長	永戸 尚樹
編集委員長	早水 守
編集委員長	若月 薫
編集委員長	塚本 良二